

事務事業名		高齢者実態調査事業				評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	2 やさしくふれあいのある健康福祉づくり				担当組織	担当部	健康医療部	担当課	いきいき高齢課
	政策	3 助け合い生きがいを実感できるまちづくり				担当係	高齢福祉係	担当課長名	片柳利幸	
	施策	1 豊かで健やかな長寿社会の実現				新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 自立支援サービスの推進				実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名				
	市単独事業・国県補助事業		市単独事業		任意的事業・義務的事業		任意的事業			
	実施方法		直営		事業分類		検査・調査事務			
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	年度～	年度	根拠法令 条例等	老人福祉法	リーディングプロジェクト	該当なし		
	市長マニフェスト		2-9							

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)	平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)						
高齢者が住み慣れた地域で自立した生活ができるよう、地域の高齢者の実態を把握し、きめ細かい福祉サービス施策を推進していくため、年に一度、65歳以上の高齢者を対象として民生委員による高齢者実態調査を行っている。	民生委員に、担当区域内の一人暮らし高齢者、高齢者世帯を実態調査に基づき把握してもらうことで、福祉サービスに繋げてもらう。						
	活動指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)
	65歳以上高齢者数	人	31,140	32,923	34,706		
	調査時の市内全世帯数	世帯	49,170	49,531	49,773		

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

65歳以上の高齢者のうち、一人暮らし高齢者、高齢者世帯の方の状況を把握する。	対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)
	一人暮らし高齢者数	人	3,982	4,213	4,444		
	高齢者世帯数	世帯	3,757	4,027	4,297		

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

65歳以上の高齢者及び高齢者世帯の正確な実態把握を行い、福祉サービス利用に繋げる。	成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)
	一人暮らし高齢者/高齢者	%	12.8	12.8	12.8		
	高齢者世帯/市内全世帯	%	7.6	8.1	8.6		

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

高齢者が安心して自立した在宅生活を送ることができる。	上位成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)
	在宅福祉サービス利用延べ人数	人	1,526	6,934	7,000		
	老人ホーム措置入所者数	人	44	44	50		

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)			
	国庫支出金	千円								
	県支出金	千円								
	地方債	千円								
	その他	千円								
	一般財源	千円								
	事業費計(A)	千円	0	0	0	0	0			
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1				
	のべ業務時間	時間	280	100	100					
	人件費計(B)	千円	1,089	394	394	0	0			
	トータルコスト(A)+(B)	千円	1,089	394	394	0	0			

事務事業名	高齢者実態調査事業	担当部	健康医療部	担当課	いきいき高齢課	担当係	高齢福祉係
-------	-----------	-----	-------	-----	---------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	民生委員法によると、民生委員は住民の生活状態を必要に応じ適切に把握し、さらに援助を必要とする者が福祉サービスを適切に利用するため必要な情報の提供その他の援助を行うことになっている。本事業は民生委員制度発足とともに開始された。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	福祉サービスを利用する高齢者が増えてきており、一人暮らし高齢者や高齢者世帯も増えているため、民生委員の負担・役割は年々大きくなってきている。また、個人情報の把握には、ある程度プライバシーに踏み込まなくてはならない部分もあるため、実態の把握が次第に難しくなっている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	市民からは、しっかりと高齢者の実態を把握し、知らない福祉事業もあるので、そういった事業を該当する高齢者に繋げることで、市民サービスの向上を図ってほしいという要望がある。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案 高齢者の実態を把握することは、高齢者がそれぞれに必要なとする福祉サービスの利用につなげられるので、豊かな長寿社会の実現に結びつく。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案 本調査は、高齢者の実態を把握し、高齢者福祉サービスに繋げるためのものであり、さらに民生委員が担当区域内の高齢者の状況把握に必要な事業でもある。個人情報を取扱うため民間等には委ねられない。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案 対象は高齢者であり、高齢者福祉サービスを有効に使っていただくための実態調査ということから、対象と意図を見直す必要はない。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない	理由・改善案 実態調査を行ってすぐの時期に各種の高齢者福祉サービス事業の申請が増えるのは、民生委員による高齢者の実態把握の効果であり、事務事業の成果が出ている。現在のやり方、進め方は最終的な形のものであり、成果向上余地は考えられない。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案 類似事務事業名
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案 事業費は、庶務経費での紙代程度であり、削減の余地はない。人件費についても、必要最低限の時間数で対応しているため、今以上の削減余地はない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	受益者負担を求める必要がない	理由・改善案 本事業は民生委員が行う実態調査であり、受益者負担の考えは適さない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？) 高齢者の実態を民生委員に把握しておいてもらうことは、高齢者福祉事業の利用につなげられるほか、定期的な高齢者の見守り、安否確認にもつながり、高齢者福祉の根幹にかかわる事業である。将来的にも休止・終了は考えられない。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																					
現状維持(従来通り実施) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○	×																			
	低下		×	×																			